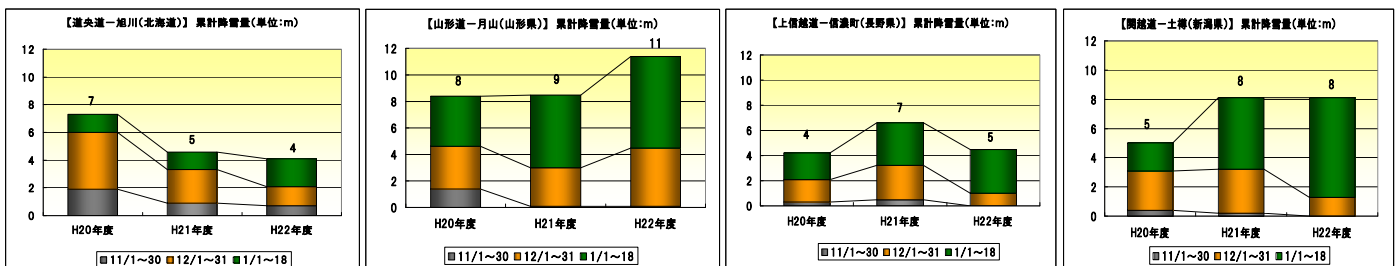


降雪の影響について

1. H22.11.1～H23.1.18 の累計降雪量

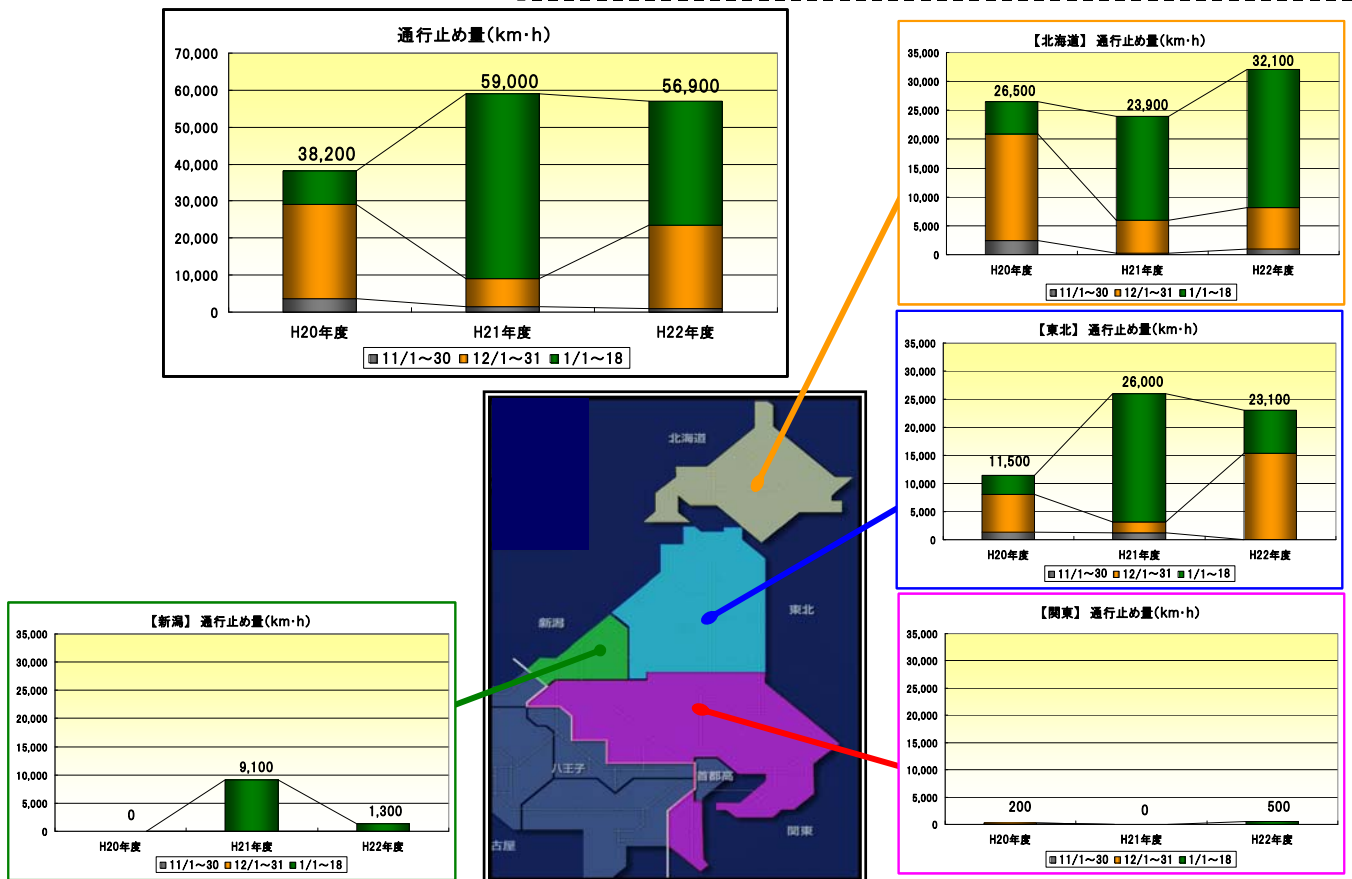
- 道央道の旭川における上記期間中の累計降雪量は約4mあり、昨年度同時期(約5m)より少雪となったが、年始以降はオホーツク海に気圧の谷が停滞する傾向が続き、降雪量が増加した。
- 山形道の月山では約11mあり、昨年度同時期(約9m)より多雪となった。
- 上信越道の信濃町では、約5mあり昨年度同時期(約7m)より少雪となった。
- 関越道の土樽では約8mあり、昨年度同時期(約8m)と同程度となった。1/9には強い低気圧の影響を受け、1m/日の降雪を記録した。



2. 降雪の影響による通行止め実施状況

- 降雪の影響による通行止め量は、約 56,900km・hで昨年度同時期と比較すると94%となった。12月に東北、1月は北海道に多くの通行止めが発生した。

※通行止め量：通行止を実施した区間距離に通行止時間に乗じた、通行止めの絶対量を表す指標。
 通行止め量 (km・h) = 通行止区間距離 (km) × 通行止延べ時間 (h)

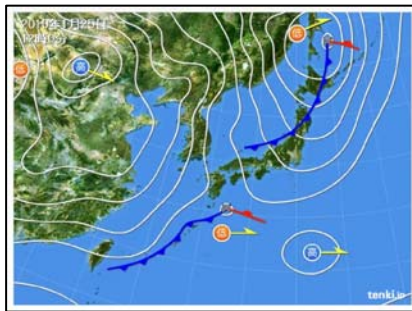


3. 通行止めに大きな影響をもたらした降雪

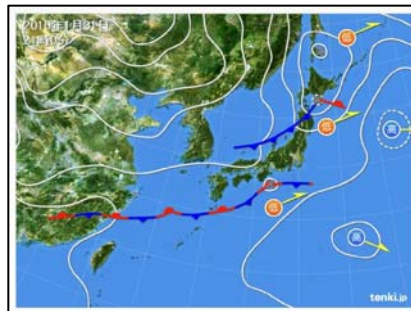
- ①12/25 冬型の気圧配置が強まり、東北(福島)を中心に大雪となった。
- ②12/31に西日本上空より発達した低気圧が北日本に流れ込み、東北(岩手)を中心に大雪となった。
- ③停滞した気圧の影響により、1/7~11にかけて北海道に断続的な通行止めが発生した。

番号	日時	通行止め量 (km・h)	延べ延長 ※(km)	主な区間	通行止め時間 (h)
①	12/25~26	8,800	690	磐越道 会津若松 IC~会津板下 IC	32
②	12/31~1/2	14,800	700	東北道 松尾八幡平 IC~安代JCT	46
③	1/7~11	11,100	1,200	道央道 江別東 IC~岩見沢 IC	43

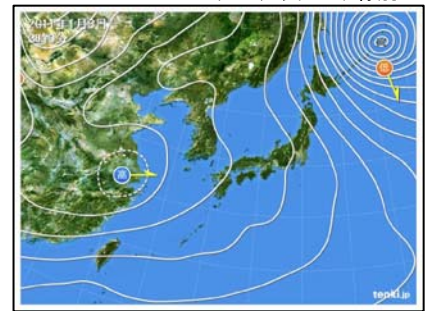
※延べ延長:上下線別



① H22.12.25 12時



② H22.12.31 21時



③ H23.1.8 3時

①12月27日;福島民友新聞

豪雪で300台、西会津で立ち往生 自衛隊派遣を要請

26日の県内は冬型の気圧配置のため、会津や中通りを中心に大雪が降った。西会津町の国道49号はスリップした大型トラックが道路をふさいで25日夜から通行止めになったが、積雪でUターンできない後続の乗用車など300台が1日近く立ち往生、多くの家族連れや観光客、運転手らが車内で一夜を過ごした。佐藤雄平知事は、通行止め解消へ陸上自衛隊郡山駐屯地に災害派遣を要請、自衛隊員約125人が出動、26日中に全て救出した。

国道49号で通行止めになったのは会津板下町一西会津町間約12キロと猪苗代町一會津若松市間の約22キロ。解除は27日朝以降の見通し。

国土交通省岩山国道事務所によると、会津板下町一西会津町間ではトラックが26日午後9時ごろより坂で上下線を走るようになり横向きに止まった。警備隊が積雪で通行止めになっていたため国道を走る車が多く、次々数珠つなぎになった。

同事務所は、車に食料やガソリンなどを配給、除雪車約20台も投入してフル稼働で作業に当たった。車に乗っていた70代男性が体調不良を訴え病院に運ばれたが、軽症。自衛隊出動後は作業が加速、26日午後11時すぎに救出を終えた。

猪苗代町一會津若松市間は26日午前4時すぎから通行止めになり、一時は30台以上が雪の中に取り残されたが、夜には現場を離れた。



大雪のため車が立ち往生し、雪の中一足も動かせない車も。26日午後9時30分、西会津町の国道49号

②1月1日;岩手日報

県内交通機関の乱れ続く 16時現在まとめ

県内は西高東低の強い冬型の気圧配置が続ぎ、各地の交通機関は1日午後4時現在、列車の運休や高速道の通行止めが相次いでいる。

JR盛岡支社によると、花輪線と山田線は倒木の撤去作業などのため終日運休。釜石線は始発から運休し、午後4時前に運転を再開した。IGRいわて銀河鉄道は全線で終日運休。JRとIGR合わせて153本が運休や区間運休し、乗客約8700人に影響が出た。新幹線は平常運転している。

県警高速隊によると、高速道は東北道の滝沢IC一鹿角八幡平IC間の上下線、八戸道は安代JCT一南郷IC間の上下線が通行止めとなっている。通行止め解除の見通しは立っていない。

③1月8日;北海道新聞

札幌などで大雪 道内荒れ模様続く



店舗前の除雪に勤むる従業員=8日午前8時25分、札幌市東区月寒町(同誌記者撮影)

大陸からの強い寒気の影響で、道内は南西部を中心に8日朝にかけ大雪となった。3連休の初日、札幌などで多くの市民が朝早くから雪かきに励んだ。同日正午までの24時間降雪量は、恵庭市島松で30センチ、胆振管内安平町で28センチ、後志管内倶知安町で27センチ。札幌市は25センチに上った。また、同日朝は十勝管内陸別町で氷点下25.5度を記録、この冬一番の冷え込みとなった。

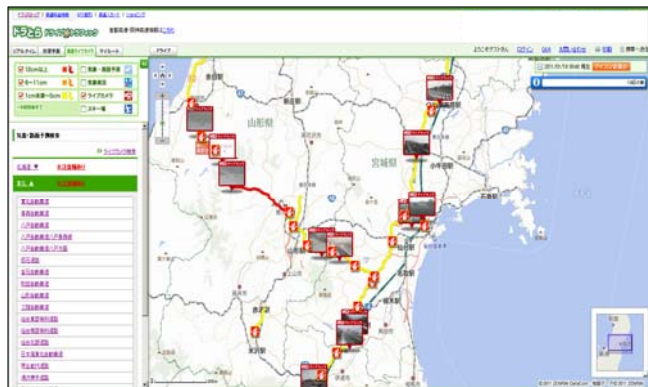
道警交通管制センターによると同日正午現在、高速道路は札幌道の小樽一札幌間など3路線5区間、道道は1路線1区間が通行止め。JRは快速エアポート2本が手稲一小樽間で部分運休。フェリーは利尻一礼文間と奥尻一江差間の計3便、空の便も中標津一新千歳間の2便が欠航した。一方、北海道電力によると7日、1日の消費電力量が1億2965万7千キロワット時と、昨年2月5日の記録を更新し過去最大となった。降雪と寒さで暖房やロードヒーティングによる電力消費量が伸びたためとみられる。

4. 冬季の雪道広報について

●雪氷対策作業へのご理解、雪道安全走行(冬タイヤ等の装置含む)啓発



ポスター



ドラぷら



ドラぷらモバイル